

後僅かで2009年 火の取り扱いに注意・電話詐欺にご注意！

住宅用火災警報器で生命を守る！我が家にも安心と安全を！

住宅用火災警報器を設置しましょう

住宅火災による死者数は、平成15年に1,000人を突破して以来、5年連続で1,000人を超えています。また、亡くなった方の約6割は65歳以上の高齢者です。社会の高齢化が進んでいることにより、住宅火災が発生した時に逃げ遅れる高齢者が多くなっているのです。逃げ遅れる方を減らすための対策として法律で整備されたのが、住宅用火災警報器の設置・維持の義務化です。大規模な集合住宅、新築住宅に続き、既存の住宅についてもすでに一部の地域で義務化が始まっています。住宅用火災警報器を正しく設置して、災害への対策を行いましょう。

住宅用火災警報機はこんなにスゴイ！

アメリカにおける住宅火災による死者数は、1970年代後半に年間6,000人を超えていましたが、住宅用火災警報器の設置が義務化され、普及率が徐々に伸びて90%を超える1,990年後半からは、年間3,000人に半減しています。

【事例1：就寝中の出火から家族の危機を救った】

家族全員がぐっすりと寝ているときに火災が発生。住宅用火災警報機が感知し、大きな警報が鳴ったため、最悪の事態になる前に、消防署に通報。全員が無事救出されました。

【事例2：うっかりうたた寝で大惨事寸前】

台所のガスコンロに鍋をかけたまま、うたた寝をしてしまい煙が発生。住宅用火災警報器が煙を感知し、大きな警報が鳴ったため、ガスコンロの火を止めることができ、大事には至りませんでした。

【事例3：ご近所さんが気づいて危機一髪】

台所のガスコンロに火を付けたまま外出して火災が発生。住宅用火災警報機が鳴ったため、近所の方々が気が付いて119番通報。消防隊が進入無事消火。

住宅用火災警報器の設置及び維持基準については、市町村条例で定められています。詳しくは、お近くの消防本部・消防署にご確認ください。

●住宅用火災警報器に関するお問い合わせは…

住宅用火災警報器相談室【フリーダイヤル】 0120-565-911

※受付時間：月～金午前9時～午後5時

